

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

母国ウクライナと共に



おれな
高橋 旺礼南 さん
ウクライナ出身 仙台市在住

—旺礼南さんは、首都キーウに次いで2番目に大きな都市のハルキウ市のご出身だそうですね。

ハルキウ州(州都はハルキウ市)はウクライナ北東部にあり、ロシアに隣接しています。ロシアに親戚を持つ人も多く、またロシア語を第一言語として話す住民も多いです。私が育った家は州都のハルキウ市内にあります。ロシア侵攻後、私が通っていた小学校の近くにも爆弾が落ち、被害を受けた様子をニュースで見ました。子どもの頃、国外からの攻撃を想定した避難訓練があり、避難先の小学校の地下シェルターには古いガスマスクがあったことを思い出しました。日本にはあまりないかもしれませんが、ソ連時代から、ウクライナの大きな建物には地下にシェルターがあります。今回、その避難者のなかにかつて私を教えてくださいました先生方がいたそうです。今も母校で教職を続けていて、ご無事だとわかり安堵しました。ハルキウ市は学園都市で様々な国からきた留学生が数多く暮らしていました。戦争が終わっても街が学生で溢れることはしばらくないのだと思うと悔しくてたまりません。

—4月9日にウクライナの映画「ひまわり」の上映会が仙台市であり、旺礼南さんはこの上映会でウクライナの状況などお話しされたそうですね。

3月下旬、ウクライナ出身者に話をしてほしいと主催者から依頼がありました。あの頃は、かつて経験したことのない驚愕、怒り、悲しみの気持ちを抱えて、霧の中にいるような感じでした。現実では、母国から母を呼び寄せる為に情報収集や連絡に時間を費やすほか、年度末だったので仕事関係の手続きなどすべきことがあり、気を張り詰めていました。いくら現地からの映像を見てもなかなか現実のものとは思えない戦争が実際に起きていること、「多くのロシア人はこの戦争に反対している」など私の認識とは異なる報道が日本でされていること、さらにロシア在住の友人や親戚からロシアを正当化するために心無い言葉を投げつけられたことなどを、みなさんに伝えたいと思い引き受けました。参加した方々から、「ウクライナ出身の人から直接お話を聞いて良かった」、また「半信半疑だったことが明確になった」などの感想を聞いて心が落ち着きました。

—旺礼南さんのお母さんは、4月半ばに日本へ来られたそうですね。ご苦労があったのでは。

はい、大変でした。母が住んでいたハルキウ州にある小さな町は3月3日にロシア軍に占領されてしまい、避難が困難でした。テレビや電話は繋



ハルキウ市内にある公的機関の建物

がらなくなって、母との連絡手段を失い、あの手この手で避難の手配をしても上手くいきませんでした。同じ町に住む友人の協力があり、4月初めになんとかその町から出ることができました。ポーランドへ逃れましたが、ご存じのように当時ポーランドは避難民で溢れていたため、私の友人がいるリトアニアへ移りました。母は、国外へ避難するまでウクライナで起きている戦争に関する情報を得られず、何が起っていたのか分からなかったそうです。リトアニアに1週間滞在している間に、私の友人がホテルの手配、日本大使館でのビザ申請、空港への移動に奔走してくれ、無事日本行き飛行機に乗ることができました。ただ母は目まぐるしい変化に対応しきれず、混乱状態にあり、成田空港到着後、空港内で迷子になってしまいました。最終的には、通常迎えに来た人が入ることが許されない場所まで特別に入れてもらい、着陸してからおよそ7時間後ようやく母と再会できました。何週間も経ってから、母が「飛行機の降り口で、自分の名前が書かれた紙を持った人が車いすの横にいたけれど、歩ける自分にサポートはいらないと断った」と話してくれました。苦労して航空会社に依頼した「お迎えサポート」のこの件が笑い話になるには、もう少し時間がかかりそうです。私たちは最近、市内に畑を借りて苗を植えました。ウクライナは豊かな土壌を持ち、作物がおいしく育つ地でした。母国と環境が異なるので同じように育つのか心配ですが、母は野菜作りを楽しんでいます。

—お仕事の傍ら、県内に避難してきたウクライナ人の通訳やウクライナ支援のチャリティーイベントのお手伝いを参加されているそうですね。どんな日々を送っていますか。

非常勤講師として、県内の小中学校に通う外国籍児童生徒の日本語学習のサポートを週5日行っています。避難者が来日してからは、県庁などで通訳をしたり県会議員との懇談会で避難生活の様子を伝えたりしたほかに、学校や各種団体からスピーチの依頼もあります。6月末にも石巻市でひとり芝居のウクライナ支援チャリティー公演があり、そこでお話をしました。石巻市は来日直後の2003年から2011年まで暮らしていたので、お役に立てて嬉しく思いました。

みなさんのご理解・ご支援に感謝します。私も心を強く持ち、できることをできる範囲でやっていきます。

「みやぎ外国人相談センター」から

みやぎ外国人相談センターに寄せられた相談事例を紹介します。

Q

日本語の母子健康手帳をもっているのですが、日本語がよくわからないので子どもの予防接種についてどうすれば良いのかわかりません。

A

外国語版の母子健康手帳を用意している市町村があります。お住いの市町村の役所・役場にお問い合わせください。また、下記のウェブサイトで多言語版の予防接種の資料を入手することができます。

《(公財)予防接種リサーチセンター》

⇒子どもの予防接種についての説明資料と予診票が10言語、予診票のみがさらに8言語あり、全てダウンロードできます。

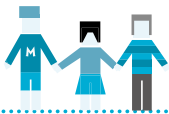
<https://www.yoboseshu-rc.com/pages/8/>



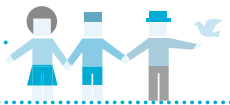
《KNOW VPD!》

⇒予防接種のスケジュールが15言語。ダウンロードできます。

https://www.know-vpd.jp/feature/vc_schedule_multilingual.html



シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



第2回 宮城教育大学 教授 高橋亜紀子さん

2回目は、外国につながる子どもの立場から支援について考えてみたいと思います。外国につながる子どもたちはなぜ日本に来ているのでしょうか。子どもたちは、大人と違って、自分の意志ではなく、親の都合で日本に来ているのです。大好きな友だちや学校と離れ、言葉もまったく分からない、友だちも一人もいない、日本の学校に通わなければならないのです。こうした子どもたちの不安はどれほど大きいのでしょうか。

先日、ブラジル人の留学生から子どもの頃の話をお聞きしました。彼は日系3世で、よりよい生活を求めて働きに来た両親とともに来日し、小学校2年生から5年生まで、日本の小学校に通いました。学校の話をお聞くと、「小学校を始めたときはとても難しかった。授業が全然わからなかったし、みんなと話せないので、さびしかった。」「学校は大嫌いということではなかったけど、好きでもなかったけど、たださびしかった。」と、「さびしい」という言葉を何度も繰り返しました。3年生になり、N先生が担任になりました。N先生は授業後に「分かったか」と必ず声をかけ、分からないところを何度も説明してくれるなど、いつも彼のことを助けてくれたそうです。だんだん日本語が分かるようになって、友達もできて、学校生活が楽しくなってきました。しかし、学校や勉強にもやっと慣れた5年生のとき、ブラジルに急に帰国することになりました。日本から離れるのがとても悲しくて、飛行機の中でずっと泣いていたそうです。

彼のように親の都合で移動を余儀なくされる子どもの気持ちを考えてみたことがあるでしょうか。日本語も勉強も十分に理解できず、学校で不安を抱えている子どもにとって、N先生のようなちょっとした声掛けや支援が大きな心の支えになります。彼はN先生には今でも感謝している、先生がいなかったら、今日本には来ていないだろうとも言っています。彼の話をお聞いて、外国につながる子どもにとって先生の存在は非常に大きなものなのだと改めて思いました。学校の先生をはじめ、わたしたち周りの大人はこうした子どもの立場になってサポートしたいものですね。

外国人児童生徒の学習支援について



今年度、宮城県教育委員会が県内の公立小中学校(仙台市を除く)及び公立高校に調査したところ、60を超える学校から「日本語指導を必要とする児童生徒が在籍している」という回答がありました。県内各所に散在し、多くの学校においては対象児童生徒が1,2名ということもあって、効果的な支援体制を構築することもままならないのが現状です。こうした外国人児童生徒の増加傾向を受けて、今年度外国人児童生徒に対する学習支援体制の強化策が打ち出されました(宮城県教育委員会からの委託事業)。

具体的には、学習支援計画の立案、指導法や教材などについてのアドバイザーから非常勤講師等教員への助言、サポート人材による学習支援、通訳による学校と保護者間の意思疎通の支援、さらには放課後や週末の時間にオンラインによる学習支援を計画しています。





MIA日本語講座 第2期が9月から始まります!

MIA日本語講座を開講します。身近に日本語を勉強したい外国人がいらしたら、ぜひご紹介ください。多言語(日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語)の案内は、MIAのホームページにてご覧いただけます。

クラス	曜日	時間	期間	テキスト	受講料	定員
初級1 初級2	火～金	10:00～12:00	9月6日(火)～12月14日(水)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥22,000 ※テキスト代別	初級1・2 各15人
中級	火・木	13:00～15:00	9月6日(火)～12月13日(火)	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55』	¥11,200 ※テキスト代別	15人
夜間初級1 夜間初級2	火	18:30～20:30	9月20日(火)～2月14日(火)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥12,000 ※テキスト代別	初級1・2 各15人

●場所：宮城県国際化協会（MIA） ●事前の申し込みが必要です。

MIA日本語講座だより

MIA日本語講座では、初級1と初級2クラスの受講生を対象に「ニューカマーのための生活適応支援事業」を行っています。今期のトピックは「防災」で、地震、津波、台風などの自然災害への対処法や、災害への備えを学ぶ機会を設けました。受講生は母語に翻訳された資料とともに、映像を見たり、防災グッズを実際に手に取ったりして学習しました。MIAスタッフが講師となって説明したのですが、重要な事柄への理解を深めてもらうため、初級1クラスでは受講生の母語を話すスタッフや相談員が通訳をしました。初級1クラスの受講生のパク ミンギュさんとソヌ ヨンハクさんは、防災について初めて学んだそうです。お二人に感想を聞いたところ、ソヌさんは「自分で避難場所を確認しておくことが必要。それからスマホが使えないことがあるとは考えていなかった。早速、連絡先などをメモしておきます」とのこと。パクさんは「防災グッズも準備しておきたい」と話してくれました。



防災グッズの説明を聞く初級1クラスのみなさん

多文化なトピック

宮城県によるウクライナ避難民の支援について ～日本語教育や通訳サービスの利用に対する支援を行っています～

ロシアによる軍事侵攻に伴い、多くのウクライナ人が避難を目的として来日していますが、宮城県でも複数の避難民の方が暮らしています。(7月6日現在13名。出入国在留管理庁発表)

県では、避難民の方々が少しでも安心して生活が送れるよう支援を行っており、そのうちの主なものをご紹介します。

◎日本語教育に対する支援

地域の日本語講座や日本語教育機関(民間の日本語学校等)で学ぶ際の受講料(テキスト代含む)・授業料を補助します。※上限あり。

◎通訳サービスの利用に対する支援

・MIAの「外国人支援通訳サポーター」の利用料を補助します。※「外国人支援通訳サポーター」紹介制度では、ウクライナ語・ロシア語・英語での対応が可能です。

・民間の通訳事業者を利用する際の利用料を補助します。※上限あり。

(・公的機関等に相談する際に、AI自動翻訳機を貸し出します。)

〈支援の対象となる方〉

出入国在留管理庁から「ウクライナ避難民であることの証明書」の交付を受けている方のうち、県内のいずれかの市町村の住民基本台帳に氏名等の記載のある方又は県内への居住が確認できる方等。※在留資格は問いません。

■詳しくは宮城県経済商工観光部国際政策課まで tel. 022-211-2972 E-mail kokusaik@pref.miyagi.lg.jp

みやぎのふるさとふれあい事業のご報告

この事業は、県内在住の外国人に地域のお祭りやイベントに参加してもらい、伝統文化の体験やホームビジット/ステイなどによる地域住民との交流を通じて、県民と県内在住の外国人の相互理解を深めてもらうことが目的です。

今年の5月に約3年振りにこの事業が行われました。国際交流協会わたりの企画で、5か国計12人の外国人が、巨理町内でいちご狩りと筆文字による作品作りを体験し、地域の方々と交流を深めました。参加者からは、「まだ名前のない新種のいちごを食べられました」、「巨理の方々の優しさがとても嬉しかった!」、「入念に準備されていて、文字を絵のように書く体験を家族で楽しむことができました」といった感想が寄せられました。

今年度は秋にも石巻市と美里町にて日帰りホームビジットや農業体験などが計画されています。詳細は、MIAのホームページやFacebookに情報を掲載しますのでご確認ください。



「筆文字による作品作り」の様子



みやぎの国際活動団体

宮城県日中友好協会(中国語/日本語 オンライン交流会)

数年前、日本語母語話者と中国語母語話者が2人一組になって、前半10分間は日本語で、後半10分間は中国語で自由会話を楽しむ交流会を開いていました。コロナ禍になって集まることができなくなりましたが、こんな時だからこそ交流を続けたいと、ZOOMのブレイクアウトルームを活用し、同じ方法で会話を楽しむことにしました。今年の3月から始めましたが、当初は毎週ひとりが集まって本当に続けられるか不安でした。参加者は少ない時で5名、多い時は12名ほどです。県内の留学生の口コミもあり、次第に中国国内から日本の大学のオンライン授業を受けている留学生の参加が増えてきました。「日本語の会話練習をする人が近くにいないので、貴重な時間だ」と感想をもらいました。また、間もなく中国で仕事をする予定の日本人、対面での中国語教室が休講になっている会員の参加もありました。

オンラインでも心は通じます。「宮城の大学に来たら、リアルで会いましょう。」と言う人もいます。オンラインでの出会いをきっかけに広がる交流が楽しみです。

毎週火曜日、19:30~20:10、皆さんもおしゃべりに来ませんか。ZOOMに慣れるという目的もあるので、前半の日本語だけや後半の中国語だけというご参加も歓迎いたします。



オンライン交流会を楽しむ様子

連絡先：jca-miyagi@rose.plala.or.jp

サポーターの声

田上 有沙さん MIA外国人支援通訳サポーター (英語)



初めての医療通訳はオンライン通訳でした。MIAから依頼を受けた直後、医療に関する専門用語への対応力は十分か、ZOOMを通しての通訳はどんな流れで行うのか、医師や患者さんはマスクを着けている会話だろうから、言葉がちやんと聞き取れるだろうかなど不安を感じました。病院から事前に提示された情報を基に英語のWebサイトを見たり、検査での体の動きを想像して言葉を考えたりして準備しました。当日は自分だけでなく、画面の向こうの患者さんも緊張しているようでした。その時はことばにつまずくことなく無事終わられたことにホッとしました。今になってリラックスしてもらえるような柔らかなことばを最初にかければ良かったと思っています。医療通訳の自主学習会*に3年ほど前から参加していますが、ここで学んだことを実際の場で活かしたことで、さらになんでも聞ける仲間がいることが役立ちました。通訳経験者から、「自分の通訳が上手かではなく、患者さんと医師など医療従事者が満足するような通訳をすることが大事」だとアドバイスを受け、自分の役割を再確認しました。今回の医療通訳を体験してみて、経験は何よりの財産になると実感しました。

*保健・医療通訳サポーター登録者の有志の方がスキルアップのため、登録言語ごとに自主学習会を開いています。詳しくはMIAのHPをご覧ください。https://mia-miyagi.jp/tsuyakusupo.html

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎ 協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)
- ◎ 当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎ 個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)
- ◎ 企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解前講座の無償提供
- 入会方法
◎ 本協会あて御連絡ください。
◎ 所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.122
編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL https://mia-miyagi.jp

